

第13回 青葉通駅前エリアのあり方検討協議会 議事概要

日 時	令和8年3月31日（火）10:00～11:30
会 場	仙都会館 8階会議室
議 題	1. 開 会 2. 第1回 青葉通エリアフォーラムの開催報告 3. 「(仮称) 青葉通エリア空間構想」のコンセプトと目指す情景イラスト案 4. 意見交換 5. 閉 会
配布資料	資料 資料1 第13回 協議会資料 資料2 第1回 青葉通エリアフォーラム グラフィックレコード 資料3 目指す情景イラスト案 資料4 第2回 青葉通エリアフォーラムのチラシ案

○主な意見等

（委員）

- ・青葉通は3つのエリアに分けており、名称は「駅前小エリア」「一番町小エリア」「西公園小エリア」としている。いずれにも「小」が付いているが、この「小」にはどのような意図があるのか。

（事務局）

- ・「小」という表現については、全体エリアに対して部分的なエリアであることを分かりやすくするためのものであり、特別な意味はない。

（委員）

- ・この協議会にて策定した「青葉通仙台駅前エリアの未来ビジョン」では、このエリアで大切にすることとして、グラデーション・ポジティブという表現をした。グラデーションという言葉を使っていた点は非常に良いと感じているが、「小」という形でエリアを区分することで対象が明確になる一方、相反すると受け取られる可能性もあると考える。

（事務局）

- ・資料1、11ページ目の情景イラストでは、西公園周辺、一番町周辺、駅前周辺というグラデーションを意識し、背景も描いている。
- ・コンセプトについては、各小エリアで目指すまちづくりの方向性を一度整理した方が分かりやすいと考えているが、隣り合う小エリア同士が連携し、交流や共創により新しい価値の創出を目指すことを前提としている。

(委員)

- ・さまざまなシーンが描かれているのは良い一方で、服装がジャケット着用の人物に偏っている印象を受けた。例えば、Tシャツ姿の人とスーツ姿の人が会話しているなど、もう少し服装のバリエーションがあってもよいのではないかと思う。
- ・また、イラストごとに空間のハード部分の描き込みが異なり、未来的な印象のものと現状に近いものが混在しているように感じた。意図があるのであれば、その説明があると分かりやすいと思う。
- ・人物の表情についても、描き込まれているものと未完成のものがあるように見えたが、今後修正されるのか。

(事務局)

- ・本日お見せしているイラストは、現在修正作業中の段階である。
- ・イラスト自体を大きく描き変えることは難しいが、青葉通まちづくり協議会とも意見交換会を実施しており、人物構成や服装などについても意見をいただいていることから、今後反映できればと考えている。

(委員)

- ・1点目は、資料1の10ページ目のコンセプトについて。
コンセプトの説明とともに、それを端的に表すキャッチフレーズがあると理解しやすくなると思う。
- ・2点目は、イラスト集について。
青葉通は、初めて仙台を訪れた方の第一印象を形成する重要な通りだと思う。
駅に降り立った瞬間に青葉通がどのように見えるのか、そうした第一印象を表すイラストがあると良いと思う。

(委員)

- ・駅前小エリア、一番町小エリアと分けて考える方向性には納得しているが、駅前エリアについては、これまでの議論の中で未来ビジョンがすでに示されている状況である。
未来ビジョンと今回のコンセプトとの関係が分かりにくく、説明の仕方を見直した方が良いと感じた。
- ・また、理想像としては納得できる内容だが、現状との接続や、地域の実情とどう連動させていくのかが現時点では見えにくい印象を受けた。
- ・現状の駅前小エリアには、ジャケットを着た方もたくさんいるが、どちらかというと仙台の中で最も様々な世代がおり、示されたイラストのように落ち着いた雰囲気はない。
そのような特徴を生かしながら、世界とつながる新しい価値や活動を生み出すことを考えると、イラストでは様々な人や活動が見られる中でのカッコよさ、外国人もいるような形で示せると良いのではないかと思う。今回示されたイラストでは、海外の方が一番町小エ

リアで登場しているため、唐突感を感じる。やはり駅前小エリアはターミナルでもあるため、そこから一番町小エリアにつながっていくことが大事であるとする。

(事務局)

- ・未来ビジョンを下敷きにコンセプトを検討するという考え方は維持している。また、駅前小エリアについては表現や整理の仕方を再検討したい。
- ・なお、資料3、1 ページ目左側の「革新的な緑のパブリックスペース」の情景については、駅前エリアをイメージして描いたものである。現在のケヤキ並木に加え、道路空間や沿道の民有地も含めて、公と民が一体となり、公園のように連続した、開放的でパブリック性の高い空間を形成することを意図している。そうした空間をつくることで、外国人観光客や国内旅行者を自然に迎え入れられる場になるのではないか、というやや理想像を込めて制作した情景である。そのため、ご意見のように、イラストの中に外国人の方が描かれていても不自然ではなく、さらに観光客らしい、よりリラックスした服装や雰囲気の人物がいてもよいと感じた。
- ・一方で、一番町エリアについては、正確には駅前エリアから一番町にかけての中間的な区間において、MICE 機能を強化できるポテンシャルがあるのではないかと、という問題意識を持っている。現在のイラストでは、そのあたりから外国人の登場がやや唐突に見えてしまう部分があるため、駅前から一番町、西公園へと至る流れの中で、ストーリー性を持って人物や活動がつながっていくよう、登場人物や構成についても改めて精査していきたいと考える。

(オブザーバー)

- ・資料3、5 ページ目の横丁の情景イラストについて、観光客と地元の人が入り混じる空間の表現は非常に良いと感じた。インバウンドが課題となる中で、こうした空間が評価され、交流人口の増加につながると良いと思う。
- ・一点確認だが、「多様なモビリティ」とは具体的に何を想定しているのか。鉄道以外も含まれるのか。

(事務局)

- ・検討 WG や青葉通まちづくり協議会との意見交換の中でも、見たことがないモビリティという意見は出ていた。
- ・JR、地下鉄、バスといった既存交通に加え、将来的には新しいモビリティも視野に入れている。2040 年を見据えた構想のため、今後検討を進めていく段階である。

(委員)

- ・イラスト全体について、仙台らしさがやや見えにくい印象がある。
仙台駅や七夕など、ひと目で仙台と分かる要素を入れることも一つの方法ではないかと思

う。特に青葉通は仙台駅と直結する通りなので、駅から西公園へつながる構成があっても良いと感じた。

(事務局)

- ・どの都市でも使えるような汎用的な絵にならないよう、仙台らしい要素を部分的に盛り込む工夫をしていきたいと思う。

(委員)

- ・コンセプトを提示するにあたり、「仙台らしさとは何か」という点は必ず問われると思う。4月16日に開催する青葉通エリアフォーラムでは、「駅前はこれからどうなるのか」といった質問も出てくるだろう。その際に協議会でこれまで議論してきた「センター・オブ・ヒューマニティ」の考え方、経緯について丁寧に説明すべきではないかと考える。
- ・そのうえで、現状として駅前エリアがやや停滞状況にある中で、だからこその通りのあり方を検討している、という大前提の説明が必要ではないかと感じた。

(事務局)

- ・ご意見のとおり、市民の方が混乱しないように説明を工夫することは重要だと考える。未来ビジョンで示している「センター・オブ・ヒューマニティ」や「グラデーション・ポジティブ」は、駅前エリアづくりの理念や考え方であり、今回の空間構想では未来ビジョンを踏まえて青葉通が果たすべき役割をまとめたものであることが伝わるように、説明の仕方を改めて工夫したい。

(委員)

- ・都心全体の中で、青葉通がどのような位置づけにあるのかというところから説明をスタートした方が良いのではないかと感じる。
- ・特に市民の方に説明する際には、まず「都心全体がこういう方向を目指している」という全体像を示し、その中で青葉通がどのような役割を果たそうとしているのか、だからこそのコンセプトに至っている、という少し広い視点から入った方が分かりやすいのではないかと考える。
- ・ややマクロな話だが、もう少しミクロの視点で見ると、青葉通と商店街との関係も気になる。例えば、名掛丁やクリスロードといった周辺の商店街と、青葉通をどのような関係性として捉えているのかという視点も重要ではないかと考える。青葉通で区切るという説明ではなく、もう少しふわっと周辺も含めた捉え方を示したうえで、レイヤーを分けて説明し、そこからこのコンセプトにつなげていく流れができると、市民の方にも理解しやすくなるのではないかと感じた。

(事務局)

- ・ご指摘のとおりで、都心の中における青葉通エリアの役割については、これまでさまざまなデータ分析を行いながら整理を進めてきたところである。その中で、青葉通エリアが果たすべき役割やポテンシャルについては一定程度整理できていると考える。
- ・今後、コンセプトや条件を提示していく際には、これまで培ってきた分析結果から導かれる、都心全体の中での青葉通の位置づけや役割、ポテンシャルをセットで説明していきたいと考える。
- ・商店街との連携については、青葉通エリアは地区計画の対象エリアと設定を合わせており、青葉通はアーケードを背負っているという認識である。そのため、情景イラスト 17 枚の中でも、アーケードや横丁をイメージするような要素を一部取り入れている。
- ・アーケードを歩く人は、にぎわいや多少の雑多さを楽しむことを望む人が多いと思う。一方、青葉通では、緑のある空間でゆったり歩くことを楽しむ人を誘導していくなどアーケードと青葉通の役割分担や、そこで想定するターゲット層の整理についても、あわせて発信していきたいと考えている。

(委員)

- ・資料 1、9 ページの図は、なぜエリアをあそこまで限定的に描いているか。
例えば、範囲を明示し、コンセプトに合致した事業に補助金を出す、といった行政的な仕組みに結びつける必要があるのであれば、どこかで線を引くという考え方も理解できる。
しかし、先ほどお話があったように、3つのエリアをグラデーションとして捉えたいのであれば、境界をもう少し曖昧にし、外側をぼかし、エリア間もグラデーションで示してしまったほうが自然ではないか。「3つに分けます」と言いながら、「でもグラデーションです」という説明は、どうしても苦しく聞こえてしまう。
そこには、やはり限定的に整理したいという意識がどこかにあるのではないかと感じた。
- ・また、資料 3 のイラストにて「革新的な緑のパブリックスペース」という言葉について、正直なところ、「何が革新的なのか分からない」という印象を持った。
都市計画的には革新的だと確信しているのかもしれませんが、見る側にはそれが伝わらない。「革新的な緑」とは何なのか。緑であれば、むしろ「人をホッとさせる」「人の内面に静かに働きかける」といったイメージのほうが一般的で、「革新的」という言葉とは、どうしても相性が悪いように感じる。とりあえず書いた言葉に見えてしまい、正直なところ、それぞれの言葉について本当に詰めて考えられているのか、まだ熟度が低いのではないかと感じた。
- ・これまでの都市の役割は、限られた人たちが決められたことを効率よくこなす場であったが、そうした機能は IT や AI などに置き換えられていくだろう。
- ・都市がこれから本当に果たすべき役割は、異なる考え方を持つ人同士が偶然出会い、新しい気づきや関係性が生まれ、そこから新しい価値が生まれることだと思う。
- ・多様性のない場所は都市ではない。同質な場所は、言い方はきついが、田舎である。今の

イラストは、申し訳ないが、その「田舎の図」になってしまっていないか。

例えば、杖を引いて歩く高齢者は描かれているが、車椅子の人や、多様なモビリティを使う人がいてもよいはずである。資料3の1ページ目、左側のイラストにもそうした存在がいてよいし、右側のイラストは正直、人が少なすぎると感じる。駅前でこれなのか、という印象である。全体として、描かれている人が似通っており、同質な人たちばかりになっているように見える。

その結果、この空間は「外から来た人に気持ちよく仙台を味わってもらい、お金を落としてもらえばよい」というメッセージに見えかねない。

- ・そうではなく、地元の人との交流、子どもや高齢者との関係性など、そこにいる人たちがもっと多様で、多様性の中から何か新しい気づきが生まれる姿が、もっと描かれていてもよいのではないか。例えば、レセプションのような空間で、脇で雀踊りを踊っていてもよいと思う。よくある話だが、学会や業界の懇親会で、形式的な催しだけが行われる空間が、本当に都市的だろうか。決められた人たちが、決められた通りに、効率よく振る舞う空間は、ビジネスの場としては成り立つかもしれないが、都市としては長く持たないと考える。

- ・これからの都市づくりで目指すべきは、新しい価値の創造。

それは、誰かが一方的に考えて生み出すものではなく、人と人が出会い、交わる中で生まれてくるものだと思う。先ほどのコンセプトの中でも「つなぐ」という言葉が重要なキーワードとして出ていた。時間をつなぐ、人をつなぐ、活動をつなぎ、価値につなぐ。

しかし、「つなぐ」のであれば、異なる人をつながなければ意味がない。同じような人同士をつないでも、新しい価値はほとんど生まれないと考える。

- ・その点を踏まえて、イラストを描く際には、少ししつこいくらいに、多様な人や状況を描き込んでほしいと思う。確かにそうすると、雑然として、上質そうに見えなくなるリスクはあるが、それでも、その雑多さを引き受けなければ、都市の軸にはならないのではないかと私は考える。
- ・完成版を次に出すスケジュールがあることは承知しているが、できれば、さまざまな立場や状況の人が、それぞれの場所に存在している姿を、もう少し意識的に入れていただきたい。そうしないと、この街が、東京やニューヨークのよくある風景を、別の場所に当てはめただけのものになってしまうのではないか、という危惧を感じた。

(委員)

- ・これまで皆さまのご意見を伺っていて、一つ強く感じたのは、現時点のイラストから未来感があまり感じられないという点である。
- ・示された情景イラストは、東京やニューヨークなど、他都市の雑誌に掲載されているような、カッコいい写真をそのままイラストにしたようなものが多く見受けらる。ただ、それらは「現在の都市の姿」であって、10年後、20年後にどうなっていくのか、次の世代にどのような景色を手渡していくのか、という未来像が少し見えにくいと感じた。

- ・また、モビリティについても、イラストの中ではあまり表現されていない印象がある。モビリティも含めて、時代を先取りするような、未来を感じさせるアイデアが盛り込まれ、それが仙台の個性とうまくミックスされていくと、より魅力的になるのではないかと思う。ぜひ、そうした未来感についてもご検討いただけるとありがたいと思う。

(事務局)

- ・登場人物については、老若男女に加え、ハンディキャップをお持ちの方なども含めるべきだというご意見は、これまでの関係者との意見交換の中でもいただいているところである。そうした方々も含めて、「つながり」を意識した表現については、引き続き作業の中で反映していきたいと考える。
- ・未来感については、現状としては、公民一体の空間で多様な人々が自然に交流する状況自体が、まだ十分に実現できていない段階にあると考える。そのため、ソフト面では、多様な人々の交流から生まれる価値創出や共創といった部分を、まずは大切にしたいと考えている。
- ・一方で、背景やハードの表現については、2040 年を見据えた構想であることから、イラストの中でどこまで近未来的な表現が可能かについては、今後改めて検討していきたい。

(委員)

- ・商業者としての意見があまり出ていなかったように感じましたので、少し現場視点で意見したい。
- ・これまで情景イラストについて議論されてきたが、実際のところ、これらの多くは仙台市が直接実施する事業ではない。ほとんどが、地元の商業者や事業者が主体となって実行しなければ成立しないものだと考える。
- ・先ほど別の委員がおっしゃっていた、外からの来訪者と地元の方との交流といった点を除けば、パブリックスペース、モバイル拠点、ハブ機能、会議空間、ビジネスパーソンの滞在空間など、すべて地元で営業し、商業活動を行う事業者が実際に動かなければ生まれない空間である。
- ・企業としては当然、日々の経済活動を見ながら、お客さんを集める工夫をし続けているのが実情である。
- ・今回のコンセプトの方向性、情景イラストで示された内容も「こういうものだ」ということで理解できるが、それを実際に実行させるための、具体的な仕組みや誘導策が見えてこないというのが正直な感想である。
- ・今後どのような形で都市計画上のランドデザインやルールに落とし込まれていくのかについて、もう少し具体的に確認したいというのが率直な思いである。

(委員)

- ・コンセプトについて、もう一度質問する。4 月 16 日のフォーラムでは、このコンセプトは

「これで決定しました」という形で示されるのか。現状では、「このような方向で」という位置づけだと理解しているが、先ほどお伝えした具体的な内容については、今後さらに詰めていく部分も多いと思う。

- ・先ほど他の委員からも、キャッチコピーのようなものがあると良いというご意見があったが、そうした点も含めて、最終的にはブラッシュアップされていくのだろうと感じる。とはいえ、1年間かけてエリアの皆さんと検討してきた成果としては、「現時点ではこのコンセプトを仮に設定します」という説明になるという理解である。

(事務局)

- ・ご理解のとおりである。
現時点では、「この方向で進めていく」という位置づけではあるが、具体的な部分については、今後も引き続き検討・ブラッシュアップしていく前提である。
- ・一方で、1年間にわたる検討の成果として、4月16日のフォーラムでは、このコンセプト案を現時点での整理として提示する、いわば「仮置き」として示す形になると考えている。

(委員)

- ・今回の資料は恐らく多くの方がこの形で見るとは初めてだと思う。
事前共有があったとしても、市民の方にとっては、いきなりこの形が示されると、「これで決まったのか」と感じてしまう可能性があると考えため、説明はより丁寧にした方がよいと感じた。
- ・コンセプトづくりが非常に大変な作業だということは承知しているが、少し情報量が多く、長く感じられる印象も受けた。また、資料の見せ方としては、もう少し「パッと見て分かる形」で示し、その後に説明文で一つ一つ補足していくような構成の方が、市民の方には腹落ちしやすいのではないかなと思う。
- ・細かい点であるが、「背骨」という言葉についても気になっている。これまでの議論の中で出てきた重要なキーワードだとは思いますが、一般の方に説明する際に、なぜ「背骨」という表現を使っているのか、もう少し説明が必要と感じた。
- ・さらに、この資料は暫定版だとは思いますが、冒頭にある「コンセプト案に込めた3つの意味」について、本当に整合性が取れているのかという点も気になる。
- ・また、各項目で「コンセプト」「創出したい価値」などが一緒に書かれているため、どこまでがコンセプトで、どこからが価値なのかが分かりにくい印象もある。
- ・キャッチフレーズを置き、使っているキーワード一つ一つについて、その都度丁寧に説明していくような構成の方が良いのではないかなと思う。

(事務局)

- ・4月16日の市民向けフォーラムは第2回目で、今年の2月には第1回を開催している。
その際には、「なぜこのコンセプトに至ったのか」という背景説明にかなり時間を割いたこ

と、前回のこの協議会（第 12 回）の中でも、青葉通の役割や個性を踏まえたうえで、コンセプトの考え方を説明してきた経緯である。

（委員）

- ・ その積み重ねのうえで今回の案が提示されているということは承知している。駅前エリアの未来ビジョン検討の際に実感したが、どれだけ説明しても伝わっていないと感じる場面が多い。
- ・ 分かっている人にとっては十分でも、一般の方にとってはそうではない、その前提を強く意識して説明していくことが、みんなの街づくりとしては非常に重要であるため、その点をぜひ意識して進めていただければと思う。

以上